

平成28（2016）年度
自己点検・評価報告書
（抜 粋）

鎌倉女子大学 初等部

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と共生の未来社会を志高く、夢と希望をもって「感謝」と「奉仕」に生きる人づくり。 【学習指導の指針】 ぞうきんと辞書をもって学ぶこころの形成。 【生活指導の指針】 人・時・物を大切にするこころの形成。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の教科等指導及び生活指導の全般を通して、初等部の教育理念である「感謝と奉仕のこころ」の形成を核に、「ぞうきんと辞書をもって学ぶこころ」と「人・物・時を大切にするこころ」の形成に取り組んだ。 ・学習指導においては、次のことに取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 授業の始めと終わりに、学級委員の掛け声で「お願いします。」「ありがとうございました。」の挨拶を励行した。 (イ) 「フリーズアの時間」では、異学年交流を採り入れるとともに、清掃や身の回りの整理整頓等、奉仕的活動に取り組んだ。 (ウ) 保護者を対象とした授業参観においては、各学年全学級ともに年間1回の道徳の授業を義務付け、家庭とともに心の教育の充実に取り組んだ。 (エ) 学期始めや終わりの会、月曜朝会において、建学の精神に基づく部長講話を多く取り入れた。 (オ) 児童一人ひとりに確かな学力の形成を図るため、個に応じた指導の充実に取り組んだ。 ・生活指導においては、次のことに取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 修養の鐘や修養日誌、校門での一礼指導を通して、「感謝と奉仕のこころ」の形成とともに、「ぞうきんと辞書をもって学ぶこころ」と「人・物・時を大切にするこころ」の形成に努めた。 (イ) 児童健全指導育成担当者による講話や月訓の掲示を通して、児童の自発的実践力の育成に取り組んだ。 (ウ) 「フリーズアの時間」だけでなく、生活全般にわたって異学年で活動する課外・課内クラブや委員会活動、異学年で出かける春の遠足や異学年で取り組む運動会の合同演技等、異学年での交流機会を多くし、上級生へのあこがれや感謝の気持ち、下級生への労わりや奉仕の気持ちを育む教育活動に取り組んだ。 ・各学年全学級において、授業の始めと終わりに気持ちを込めて「お願いします」、「ありがとうございました」の挨拶が言えた。 ・登下校のバスの乗り降りの際にも、「お願いします」、「ありがとうございました」の挨拶が言える児童が増えてきた。 ・国語科や算数科の授業を中心に、高学年になるにつれて意見交換が活発に行われるようになり、他者とのかかわりのなかで、共に成長しようとする姿が見られるようになってきた。 ・道徳の授業についての授業改善が図られ、新学習指導要領で提唱されている「考え議論する道徳」の授業が、少しずつ実践できるようになってきた。 ・学芸会や音楽会、運動会、みどり祭等の学校行事において、最高学年としての自覚とプライドをもってリーダーシップを発揮する6年生が増えてきた。

	<ul style="list-style-type: none">・「代表委員会」の児童の活動が活発になり、校門前での登校時のあいさつ運動やチヨボラ活動（ちょっとしたボランティア活動）が自発的に行われた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none">・建学の精神のもとに構築した不易不変の教育理念及び教育目標に基づき、初等部の「学力観」及び「指導観」・「評価観」を明確にし、信頼と思いやりの学校づくりを具現化する。・本年度に策定した「初等部経営計画」をもとに、初等部教育の充実と向上、組織化と効率化を図る。

1-②	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「初等部中期目標」をもとに、これまでを見取り、今を見つめ、これからを見据えた信頼と思いやりの学校づくり。 【具体目標】 ・「豊かなこころ」と「確かな学力」、「健やかなからだ」を身に付けた品位ある初等部生の育成。 ・国語科を超えた国語力・言語力の育成。 ・自主性・自発性と創造性の育成。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27（2015）年度に策定した「初等部中期目標」に沿って、中・短期目標をもって経営と運営の充実に取り組んだ。その重点取組目標の観点、次の9つである。 「1. 学校運営」「2. 学習指導」「3. 児童指導の充実」「4. 人材育成と教師力の向上」「5. 募集力の向上」「6. 進路進学指導」「7. 学校防犯・防災」「8. 学校安全・健康衛生」「9. その他」。 ・教科等学習に関しては、特に「学習指導」と「児童指導の充実」、「人材育成と教師力の向上」に取り組んだ。 ・本年度のテーマは、「もう一つ丁寧に！もう一步誠実に！」で、このテーマのもとに信頼と思いやりの学校づくりを目指した。 ・懸案となっていた「初等部経営計画」が、教職員の共通理解のもとに策定できた。 ・募集力の向上に関しては、90名の定員にはまだ達しなかったが、一定の回復が見込まれた。 ・学習指導に関しては、教職員の共通理解のもとに初等部のカリキュラムポリシーが確立してきた。 ・「研究研修推進委員会」を中心に授業改善が進み、初等部版アクティブ・ラーニング（学習者能動型・対話型）の創造に向けた取り組みが推進できた。 ・アフタースクールを含め、放課後の学力向上プログラムが整えられた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼と思いやりの学校づくりの実現を通して、募集定数の確保を図る。 ・「初等部経営計画」の拡充を図り、信頼性と妥当性、計画性のある初等部教育の実現に努める。 ・初等部版アクティブ・ラーニングの開発に向けた取り組みを推進する。 ・部内及び関係者評価の充実を図り、初等部の組織化と効率化を図る。

2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成が適正かどうかを精査する。 教育課程編成の基本方針を、教職員に周知する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 「三部会特別委員会」の一つに「教育課程運営委員会」を設け、教育課程の編成と運営・改善に取り組んだ。 平成26（2014）年度より2年計画で教育課程編成したものを、精査し、加筆修正した。そして、それらを配付できる形に整えた。また、不足する部分がある教科等については、新たに起案した。 「教育課程運営委員会」を通じて、教育課程編成の基本方針を教職員全員に周知した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 来たる新学習指導要領大改訂に向けての、初等部としての考え方を策定していく。 教育課程の編成の精査内容について、学年によって差異のないように検討していく。 特別の教科「道徳」と、本学初等部で実施している礼法学習との関係性を整理する。

2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の実施に必要な、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画（紙ベース）と実際に行っている授業（実績）が、教科の目標等、どれだけの整合性がとれているのかどうかを精査する。 ・週案を作成することにより、授業者が各自で授業時数の管理を計画的に行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・週案は、ほぼ全員の教職員が毎週の授業実施に向けて作成・振り返りを行い、授業時数の管理とともに進めてきた。 ・年間指導計画は、作成及び加筆修正を進めてきた。 ・一方で、年間指導計画未作成及び（作成済みであるが）加筆修正がされていない学年・教科がある。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・週案については、全員が作成する。 ・週案の基本事項（記入内容、時数管理等）の見直しを行う。 ・平成29年度「教育課程運営改善委員会」を中心に、年間指導計画を再整備する。そのなかで、教科内での系統性や継続性の整合性を確認する。 ・年間指導計画未作成及び未加筆修正の学年・教科は、学年主任及び教科主任の責任の下に確実に作成する。

2-③	<ul style="list-style-type: none"> 必要な教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 学則に基づく授業時数が、各学年で計画的に実施できているかどうか確認し、大幅なズレが生じている場合は、それを解消する手立てを講じる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の実際の授業時数をもとに算出すると、おおよそ次のとおりである。 (学則の初等部教育課程で定められた時数との差、過不足割合) 1学年：生活 (-16.5、-16.2%) 2学年：学活 (+15.5、+23.5%) 3学年：学活 (-9、-23.7%)、英語 (-6、-15.8%) 4学年：道徳 (-6.3、-16.7%)、フリースタイル (-5.7、-56.7%) 5学年：道徳 (-17.7、-46.6%)、総合 (-20.7、-39.1%) 6学年：算数 (-28.1、-29.3%)、総合 (-10.7、-20.2%) 教科ごとの年間授業時数と比較して、「国語」は時数が多いため、おおむね一割程度の範囲での不足で収まっている。他の教科は、既出の教科と比べると年間授業時数が少ないため、過不足の割合が極端に大きくなっている。特に週一時間しか設定されていない教科や月曜日に授業設定されている教科の時数不足が目立つ。 文部科学省が定める年間授業時数はクリアしている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた授業実施にあたり教科ごとの偏りについて留意するよう、呼びかけてきたが、さらに呼びかけ方の改善を行う。 学年主任を中心とした学習予定表の作成を通して、バランスの良い学習計画の遂行に努めてきた。しかしまだ、改善の余地がある。教務担当による定期的な確認作業を実施していく。 「単元別指導計画」の全職員への紙面配付を年度末に実施することで、全教職員が、教科指導時数や教科指導内容を確認・意識しながら、学習指導に対して意識を持って活動する一助とする。

2-④	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成が適正かどうか、精査する。 ・「年間指導計画」（紙ベース）と実際に行っている授業（実績）が、教科の目標等、どれだけの整合性が取れているのかどうかを精査する。 ・「単元別指導計画」の加筆修正を行い、授業内容を平準化する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領及び初等部学則に示された授業時数をもとに、「年間指導計画」及び「単元別指導計画」を策定し、教育課程の編成と教育活動を実施した。 ・教科ごとの「年間指導計画」及び「単元別指導計画」には、目標が設定されており、それに基づいて学習活動を実施した。 ・「年間指導計画」及び「単元別指導計画」が、実際に行われている授業とどれだけ整合性が取れているか、加筆修正を行った。 ・評価担当者を置き、指導と評価の一体化とともに、「あゆみ」の電子化を図り、妥当性と信頼性のある「あゆみ」の作成に取り組んだ。 ・評価規準・評価基準に基づきながら、指導と評価の具現化に取り組んだ。 ・教科ごとの評価基準・評価規準が設定してあるが、指導者によって解釈が異なることがあった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者によって扱いが変わらないような「単元別指導計画」を作成していく。 ・評価基準の観点別評価の基準をできるだけ数値化し、どの教員が指導しても、指導と評価の一体化が図れるよう、また低学年～高学年の系統性が見えるような評価基準を更に改善していく。

3. 学習指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領や設置者が定める基準（学則）にのっとり、学校全体として、児童の発達段階や学力、能力に即した指導が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階や学力、能力に即した指導を実施する。 ・初等部の目指す児童観に沿った指導を実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部の学則は、文部科学省が定める小学校学習指導要領の標準時数を超えた設定をしている。 ・各教科、領域の「年間指導計画」「単元別指導計画」をもとに、学習指導を実施した。 ・4月に実施した「全国学力・学習状況調査」（6年生対象、文部科学省）や、3月に実施した「標準学力検査NRT」（1～5年生対象、図書文化）の結果を、児童や保護者にフィードバックし指導に活用した。 ・各教科、領域の「年間指導計画」「単元別指導計画」については、2年間かけて、見直しを実施することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・来たる平成30（2018）年度の小学校学習指導要領の改訂に向けて、内容の吟味・精選を行う。 ・改訂学習指導要領の情報を集め、平成32（2020）年度を目途に新しいカリキュラム編成に向けた体制と工程づくりを検討していく。特に、特別の教科「道徳」については、平成30（2018）年度より先行実施となるため、精力的に計画立案を進める。

3-②	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に改善されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」と「健やかなからだ」を育むため、児童自らが目標を持ち、日ごろの学習の成果を発揮するための機会とする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・数学検定や漢字検定等「7つのチャレンジ」のチャレンジ意欲の高揚に取り組んだ。 ・「確かな学力」を育むため、英語検定（英検Jr.）、漢字検定、書き方検定、数学検定、パソコン検定を実施した。 ・英語検定は、10月・1月に年2回実施し、英語講習を受講した4年生以上の希望者が5級を受検した。英検Jr.は、11月・2月に年2回実施し、全学年対象に希望者が、BRONZE、SILVER、GOLDの階級を受検した。6年時における英語検定5級以上の級取得者と英検Jr GOLD級取得者の合計割合が、50%を越えるように取り組んだ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定は、7月・1月に年2回実施し、全学年対象に希望者が受検した。 ・書き方検定は、日本書写技能検定による硬筆書写技能検定を1月に実施し、4年生以上の希望者が、5級を11名、4級を1名受検した。 ・数学検定は、6月・11月・2月に年3回実施し、全学年対象に希望者が受検した。 ・パソコン検定は、2月のパソコンの授業内で実施し、4年生以上全員が受検した。4年生はブロンズ、5年生はシルバー、6年生はゴールドの課題に取り組み、A・B・Cの評価を受けた。 ・「健やかなからだ」を育むため、なわとび検定、泳力検定を実施した。 ・なわとび検定は、2月の体育の授業内で実施し、全学年対象に20段階に分かれた検定に取り組んだ。 ・泳力検定は、9月の水泳の授業内で実施し、全学年対象に18段階に分かれた検定に取り組んだ。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部独自で行っている検定に関しては、検定内容を精査していくとともに、授業内や休み時間などを利用し、児童が目標をもって練習に取り組める場を確保していくようにする。 ・実施する時期を分散できないか検討したが、検定内容の関係から時期を移動させることは困難であった。特に年度末の1月と2月に集中してしまう傾向にあるため、今後の改善策を検定担当で検討していく。 ・希望者を募る検定に関しては、校内掲示などを利用して周知を図り、受検者を確保していく。

3-③	・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。
取組目標	・校内研究授業、校内研修を通して、授業改善に取り組み、授業の基礎を学ぶ。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・6回の校内研究授業と7回の校内研修を行った。 ・研究授業の協議会では、視点に沿って、話し合いをした。鼎談を取り入れることによって、発言する機会が増え、活発な議論ができた。KP法を使う等、教員のプレゼンテーション力が格段と向上した。 ・校内研修では、具体的な良さと課題を助言しあった。 ・教師主導型の授業の転換が図られるようになってきた。 ・板書計画ができていない授業が多かった。 ・発問・指示が不明瞭な授業はほとんどなかった
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも研究授業、個人研修授業を通して、授業の基本を助言し合える関係を整えていく。 ・学び合いの授業、子どもが主体の授業を創っていくためには、聞く力、話す力、話し合う力が不可欠である。さらに指導力の向上を図っていく。 ・教師の発問、指示、氏名、板書等の基礎は、不変であるとする。これからも必要があれば話題にし、助言し、高め合っていく。

3-④	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に書画カメラや電子黒板、iPadを活用し、学習者同士の伝え合いと学び合いの授業を促進するとともに、学力の定着と向上につなげていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に書画カメラや電子黒板を活用するといった教育活動を行った。理科や社会科、道徳はNHK for school等の動画資料を用いた学習や、教科書・ワークシート等を投影しながら発表や解説を行った。 ・iPadの利用については、体育や国語の授業で動画を撮影し、音読や跳び箱等の出来栄を記録・確認して技能の向上を図ること、算数の授業の計算練習に算数アプリケーションを用いて児童の興味・関心を引くこと等に活用した事例があった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も更に書画カメラや電子黒板の活用を進めていく。また、活用方法を増やしていく。 ・年度途中からの導入になったこともあり、iPadの利用率はまだ低い。今後は調べ学習や意見の共有等、活用の機会や方法を増やしていく。 ・授業で利用した教員から、新たに導入すべきアプリケーションについて意見を集め、担当者で導入を検討する。

3-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回司書教諭による「読書」の授業を行い、図書館の計画的・積極的利用並びに読書活動の推進に努める。 ・調べ学習に必要な環境を整備し、情報発信センターとしての役割を果たし、図書館を上手に活用する。 ・図書委員会の児童による働きかけで、休み時間の図書館利用率を上げる。 ・放課後図書館活用を取り入れ、図書館利用率を上げる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書」の年間カリキュラムに基づき、図書館を利用して発達段階に応じた内容で授業を行い、読書活動の推進に努めることができた。 ・OPAC検索専用端末や、タブレット型パソコンを10台整備し、調べ学習の効率化を図った。 ・OPAC検索についての学習は、「読書」の授業で行い、グループ、個人とスタイルを変えながら、積極的に調べ学習を推進した。 ・「図書委員会」の児童による積極的かつ熱心な取り組みで、図書館や本に関する関心を高め、初等部の児童の休み時間の図書館利用率が上がった。 ・放課後図書館開放「木もれびの部屋」を試行し、特に低学年の利用率が上がった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館間の連携を図り、学校図書館に留まらず多種多様な図書館について知る機会を作り、さらなる図書館の計画的・積極的利用並びに読書活動の推進に努める。 ・「読書科」としての教科独立と、他教科との連携を、バランスよく進めていく。 ・委員会活動は児童中心で進めてくことが理想的なため、もう少し企画・立案が形になるよう活動をサポートしていく。 ・図書館開放「木もれびの部屋」の本格始動に向け、策を講じ、さらに図書館活用の活性化を図る。

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習や問題解決的な学習、児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしグループ活動を通して、上級生としての自覚をもつ。また、児童の自発的なかわりを増やす。 ・建学の精神を意識して、奉仕活動を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしグループ活動では、みどり祭の作品紹介とみどり祭に向けて清掃活動を行った。リーダーとなった上級生が、下級生に適切な指示を出すなど、上級生としての自覚を持つことができた。 ・下級生も、なかよしグループ活動において、自分の役割を果たそうと努め、交流を深めることができた。また、下級生は普段かかわることの少ない上級生との交流の場として機能し、活動後にも同じグループの児童と交流することができた。 ・フリースタイルでは、校舎内の清掃を行った。建学の精神にあるように、「感謝と奉仕の心」を持って、心を込めて取り組むことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしグループで共通の活動・課題に取り組む機会を増やしていく。 ・フリースタイルでは、決められた場所の清掃だけでなく、自分たちで奉仕活動について考え行動する機会をつくっていく。

3-⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、体験活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を根幹とした上で、児童の自主的な創意工夫も取り入れながら、バランスのとれた学習内容が図られた教育活動として学校行事を実施する。 ・学校行事を通して、初等部の教育理念を根幹とした「知・徳・体」の能力を総合的に育成するための内容となるように取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式・卒業式は、初等部生として迎え、そして初等部から送るための儀式的行事であり、ともに厳粛な式典であるとともに、学校全体で温かな気持ちをもって取り組み、実施することができた。 ・みどり祭・学芸会・音楽会は、学習発表を中心とする文化的行事であり、児童の自主性・自発性を取り入れた表現力の育成と、鑑賞能力の向上とが一体となり、精神を豊かに修養する体験の積み重ねを担っていく活動となった。 ・春の遠足では、1・6年生、2・4年生、3・5年生といった異学年の組み合わせで各目的地へ行き、現地で自然や文化とふれ合うなかで、お互いの交流を深めることができた。また、9月には1・2年生が秋の遠足、3～5年生が鎌倉めぐりを行い、自然や歴史文化にふれるなかで「知・徳・体」の能力を育むことができた。 ・運動会では、赤白の組に分かれ、学年ごとが日ごろの体育授業で培った力を競技や演技で表現できた。また、応援団の結成から練習、当日の活動をも含め、児童は精一杯の努力を発揮することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・岩瀬キャンパスのみどり祭は中・高等部と別時期での開催となり、内容の変化に影響もあったが、幼稚部との同時開催は達成された。これに伴い、6年生児童のボランティア活動を活性化させることができた。今後は更に検討を重ねて、児童が更にかかわることのできるものを目指していく。 ・校外宿泊体験学習における実施時期は徐々に改善され、猛暑の夏季を避け、安定した気候的時期と環境のもとで活動を行うことができた。3年生は台風と重なり、10月末の実施となった。今後は、更なる目的地の選定に検討を重ねる必要がある。

3-⑧	・児童会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	・1年生を迎える会、スポーツ集会、6年生を送る会を実施する。
取組内容 と成果	・例年行われている内容に加えて、6年生を送る会では、6年生一人ひとりが注目されるよう入場の仕方を変更した。
今後の課題 と改善策	・各児童会活動の充実を図るため、企画立案を年間計画として年度始めに行っておく。

3-⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制の下に積極的に実施されているか。 ・部活動が、教職員全体の協力体制の下で実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してより良いクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てるために、クラブ活動を積極的に実施する。 ・クラブ活動が適切に運営できるよう全教職員で取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・課内クラブでは、4年生から6年生の児童が全員参加できるよう全教職員が11のクラブの担当を分かれて指導にあたり、適切に運営することができた。 ・課外クラブでは、1年生から6年生の児童から希望者を募り、全教職員が7つのクラブに分かれて担当し、朝、放課後の練習や、校外でのコンクール・大会等で、適切に運営することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・課内・課外両クラブにおいて、年度によって、クラブ希望者数などが変化するため、安全管理や技術指導等配慮して、全教職員で取り組めるよう、適切な人数配置等を検討する。 ・全教職員で指導にあたるため、安全管理や児童の興味関心等により、クラブ数においても検討を重ねる。

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や習熟度に応じた指導を行い、基礎基本の定着を図るとともに、補充的な学習や発展的な学習を通して、思考力・表現力・判断力の育成を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの学び合いを取り入れることで、分かる子、分からない子のどちらも伸びる、個に応じた指導ができた。 ・理科の実験や野外での観察においては、複数の教員で指導にあたることで安全を確保するとともに、技能に関する個別指導の充実を図ることができた。 ・5学年では、算数科において習熟度別グループでの指導について研究を行い、一人ひとりの理解に合わせた指導について校内研究授業として学校全体で協議した。 ・主に低学年において、児童の希望に対応し、放課後に学習支援を行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた学習指導やグループでの教え合いや学び合いを中心にした学習指導をよりいっそう広げていく。特に2名の教員によるティーム・ティーチングを行っている算数や理科、英語等の授業においては、より細やかな指導を行い、個に応じた指導を進めていく。 ・トピック単元やオリジナル教材などを積極的に活用し、思考力・表現力・判断力を伸ばしていく。

3-⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム・ティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部教育目標に従い、第1学年児童の「安心した学び」「楽しい学び」「確かな学び」の充実を図る。 ・チーム・ティーチングの指導において、教員の役割分担を明確にし、一人ひとりの児童に適切な指導・支援を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年の「安心した学び」「楽しい学び」「確かな学び」の充実を図るため、次の内容に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ①導入で児童の興味・関心を高めるため、アニメーション化したパワーポイントや実物投影機等の効果的なICT活用を積極的に取り入れ、前時の振り返りや本時の課題把握をすることで、児童の思考の流れを大切にしたい学びを行うことができた。 ②ペアやグループなど児童同士のかかわり合う場面を多く設定しながら学習することで、児童の思考力・表現力を育む学びを行うことができた。 ・チーム・ティーチングの指導において、教員の役割分担を明確にし、一人ひとりの児童に適切な指導・支援を行った。国語や算数をはじめ、多くの教科を複数の教員で指導にあたり、細やかな指導や個に応じた支援をすることができた。また、T1（発問・指名）T2（板書・ノート指導）という役割を事前に打ち合わせするなど、指導教科に応じて様々なスタイルを取り入れながら指導をした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なICT活用を積極的に取り入れ、前時の振り返りや本時の課題把握をすることで、児童の関心をひきつつ思考の流れを大切にしたい学びを行うことができている。今後もICTを活用しながら、既習事項を生かして学習するというスパイラルな指導が行えるようにしていく。 ・今後も、児童の思考力・表現力を育む学びが行えるよう、ペアやグループなど児童同士のかかわり合う場面を多く設定し、児童一人ひとりの語彙を増やしたりスピーチ力を高めたりできるような指導をしていく。 ・チーム・ティーチングの様々なスタイルを試みる事ができた。今後はT1とT2の役割や立ち回り方について模索していく。今後も「安心した学び」「楽しい学び」「確かな学び」の充実を目指して、より良い指導・支援の方法を検証していく。

3-⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼小連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。 ・小中連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。 ・高等部との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚部、初等部、中・高等部の3部の情報共有を深める。 ○併設幼稚部との連携と協働を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童と園児の交流活動を促進する。 ・初等部と幼稚部の教職員交流会を年間2回程度開催する。 ・初等部だよりやポスターを用いて、初等部情報を幼稚部保護者に届けていく。 ○併設中・高等部との連携と協働を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・中等部内部進学について、中等部長や入試担当者から説明を受け、共通理解を図る。 ・内部進学説明会の回数や持ち方を工夫する。 ・初等部の進路指導主任と中等部の入試広報主任等と定期的に連絡を取り合い、特に内部進学について遺漏のないようにする。 ・中等部への内部進学を促進する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、計3回、幼稚部生と1年生とで交流を行った。その結果、1年生の年長者としての自覚が芽生え、年下に優しく接する意識が高まった。 ・初等部と幼稚部との職員合同研修会を行った。その結果、幼稚部・初等部相互の取り組みへの理解が深まった。 ・幼稚部との連携のもと、児童と園児及び教員間においても交流促進を図り、幼稚部と初等部の一貫教育の実現と内部進学の促進に取り組んだ。 ・中等部との連携のもと、内部進学説明会の持ち方を検討するとともに、英語を含む講習活動の推進を図り、中等部への内部進学者数の増加に取り組んだ。 ・内部進学説明会を4月・9月・1月に計3回実施し、低学年時から中等部の教育への関心を持ってもらえるようにした。 ・中・高等部のみどり祭と初等部の授業参観の日程を合わせることで、より多くの保護者と児童が中・高等部のみどり祭へ参加できるよう工夫した。 ・初等部4年生を対象に、中等部で理科の合同授業を実施できた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部カリキュラムをより理解し、初等部での教育活動により生かしていく。 ・初等部女子児童対象の中等部の内部進学説明会の回数を増やしていく。 ・初等部教員が中等部の授業公開を見学する。 ・女子児童数に対する内部進学の割合を上げるため、中等部との連携を図り、改善への取組を検討する。 ・初等部と中等部との交流の機会を作り、互いの理解を深めていく。

3-⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部が取り組んでいる研究・研修などに、大学の教員から専門的な指導を受けるようにする。 ・授業研究会の講師として大学の教員を招聘する。 ・通年の教育ボランティアを募集する。 ・初等部の5年児童が大船キャンパスに行き、大学の教員から話を聞く。 ・大学生、大学院生の初等部への訪問、授業参観を通して、交流の促進を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業には、大学の教員を講師として招き、専門的指導を受けた。研修についても、大学の教員から専門的な話を聞くことができた。 ・教育ボランティアを募集し、大学より2名の学生が参加した。 ・初等部5年児童が、「鎌倉めだか」の話を大学の教員から聞くことができた。 ・大学4年生が初等部の授業を参観し、その後、授業者からの講話を聞く「教職実践演習」を行った。 ・プログラミングについて、大学の教員と話し合いの場を設けた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業力向上」は、初等部教員にとって必要不可欠である。継続して大学の教員より専門的指導を受け、自己研鑽を積んでいく。 ・教育ボランティアの募集を早めに行う。または年度の途中参加も募集をかけるなど拡大していく。 ・「モノ・コト」クラブを次年度より開設する。大学生がクラブに参加し、初等部生と交流を図る。大学と連携をとり、内容を充実させていく。

4. キャリア教育（進路指導）

4-①	・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身の周りの仕事や環境への関心・意欲を高める。 ・夢や希望、憧れを持ち、より良い自己形成を図ろうとする。 ・勤労を重んじ、目標に向かって努力することができる。 ・自らの進路進学に関心を持たせる。 ・人間関係形成能力や自己理解力、自己決定力、課題対応力の育成をする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験（工場見学等）を通して、自ら課題を見つけ、解決していく学び方を身につけさせ、新たな自分の生き方を見出すことができた。 ・すべての教科において、働く人々とのふれあう機会を大切にすることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校生活や教科等の授業、体験活動、行事を経験するなかで、各児童なりに学んだり考えたりすることはできたが、それらを自らの進路進学への関心に結びつけることができなかつた。今後は、児童の興味・関心を大切にしながら、自分ならどのようにしたいなど、目的意識をもって体験ができるようにしていく。

4-②	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 ・職場体験や就業体験が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階を考慮して、学年に応じて強化等との連携を取りながら、キャリア教育の推進を図る。 ・キャリア教育に関する体験的な学習の充実を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科等の学習と連携し、社会的・職業的な観点の学習に取り組むことができた。 ・町たんけん、水再生センター見学、自動車工場見学、林業・酪農体験学習等、様々な施設や人とかかわりながら、体験学習を進めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が更に豊かに社会的・職業的な自立ができる視点を持つことができる学習になるよう質的向上に取り組む。 ・勤労観・職業観の育成につながる体験的な学習の取り組み事例等の情報収集をし続ける。 ・様々な教科の授業において、児童が自分の将来像を考える機会や職業観を広げる機会としてつながるよう意識して指導にあたる。

4-③	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の能力・適正等の理解のために必要な個人的資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の能力・適正を把握するために校内で実施した模試などの資料の活用を図る。 ・中学受験の希望校や進学先等の情報を整理し、次年度の進路指導などに活用する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた模試を行い、児童の能力・適正を把握し、個人面談などにおいて一人ひとりに応じた学習や進路指導に活用することができた。 ・児童が受験した学校や試験結果、進学先などの情報を収集・整理したり、卒業後の児童の様子などを聞いたりすることで、児童に合わせた進学指導に生かすことができた。 ・外部受験については男女ともに好調で、男子37名中、栄光学園中学校が2名、聖光学院中学校が4名、浅野学園中学校6名が合格するなど、入試困難校への合格も相当数出ている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進度と模試の内容等を合わせ、更に充実した進路指導につながるよう配慮する。 ・児童が受験した各中学校の試験や面接内容などの情報収集などについても必要に応じて収集、活用を検討する。

4-④	・進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。
取組目標	・個々の児童のニーズを把握し、支援の内容や方法について、本人や保護者と共通理解を図る。
取組内容 と成果	・主に受験における進路相談を行った。 ・児童一人ひとりに対して、その児童に合った進学校についての助言を行った。
今後の課題 と改善策	・進路相談が進学校の助言にとどまっているため、今後は更に先を見通した将来の職業等を踏まえた上での進路相談ができるように計画的に準備をしていく。

4-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路進学相談室を中学受験や将来の職業（夢）について考えることができる場として活用する。 ・児童が進路進学相談室を積極的に活用できるよう、場の工夫をする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導主任を中心に、進路進学相談室を個別重点指導室や補習室等にするなど、その有効活用の検討を図り、児童一人ひとりへの進路指導の充実に取り組んだ。 ・進路相談や自学自習のできるブース、中学受験案内、過去問題、様々な職業の紹介本を置き、児童が使用しやすいよう配置を工夫した。 ・6年生を中心に受験勉強や個々の進路相談で多くの利用があった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談としての機能を更に充実させていく。 ・高学年を中心に進路相談、キャリア教育の時間を確保し、積極的に活用していく。

5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教職員全体で児童の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「品位ある児童」の育成を目指し、共通理解をもとに組織的に一貫性をもって指導・対応を行う。 ・児童指導と保健指導、安全指導の充実を図り、児童のだれもが「安全で安心」して学べる教育環境づくりを行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「職員会議」や全体会を通し、児童指導の共通理解を図った。 ・年間9回の「児童健全育成委員会」を行った。その結果、教職員間でより共通理解を持ち児童指導を行えた。 ・「いじめ防止基本方針」の策定や「児童指導全体計画」の作成を通して、だれもが安心して豊かに生活できる学校づくりに努めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もより共通理解の深め、組織として対応していく具体策を検討していく。

5-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか。 ・スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの連絡を定期的に行い、児童の健全な発育をサポートする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと共同で児童の行動を把握し、実態に応じて適宜支援を行った。その結果、児童が自分の行動様式を認識できるようになり、落ち着いて行動できるようになった。 ・児童指導における相談機能と連携機能の強化に継続して取り組んだ。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと連絡を定期的（月1回程度）にとり、次長、学年主任または必要に応じて担任も含む教員が集まり、情報交換する場を設ける。 ・初等部生の心身の成長の援助をする役割を担う。

5-③	・児童の問題行動の状況を共有し、適切に対処できているか。
取組目標	・児童の問題行動の状況を共有し、適切な対処を行う。
取組内容 と成果	・「職員会議」や年間9回の「児童健全育成委員会」において、各クラスの状況を確認、共有した。その結果、問題の程度に応じて対処を行うことができた。 ・問題行動の防止と児童指導の充実に取り組み、児童一人ひとりに対してきめ細かな児童指導ができた。
今後の課題 と改善策	・クラス担任レベルでの対処が多く、組織的な対処を進めていく必要がある。 ・「いじめ防止基本方針」のもとに「児童指導全体計画」を作成し、今後ともいじめの防止の徹底に努める。

5-④	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる児童を育成するための指導を行っているか。 ・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童を育成するための指導を行っているか。 ・社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身に付けた児童を育成するための指導を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や月訓、ルール・マナー指導を通して、自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる児童の育成を行う。 ・社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身に付けた児童の育成を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自主・自発的で創造的な活動を生み出し、児童の自律的な自己指導能力の育成に取り組んだ。 ・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる児童を育成するため、学芸会等の行事において、また、月初めに学年・学級を中心に毎月の月訓等について考えさせ、学級・個人で目標設定をし、ふりかえりを行った。その結果、代表委員など働きかける児童も見られ、意識が高まりつつある。 ・教職員全員による当番制での登下校時の指導については、大船駅（構内・階段・エスカレーター）、バスターミナル、学校前バス停、校門などで、全教職員が適切な指導を行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・公共心育成のため、登下校時の電車やバスの乗車マナー改善に努めていく。

6. 保健管理

6-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。 ・児童の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談が適切に実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防、児童の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか。
取組目標	<p>【初等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校保健計画」をもとに、月ごとの保健目標を各クラスで確認、実践し、保健行事、保健管理、保健指導、保健学習、組織活動を円滑に進め、改善を図る。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校保健計画」を作成し、適切に実施する。 ・児童の健康管理、環境管理、保健指導を適切に実施する。 ・日常の健康観察や、疾病予防、児童の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。
取組内容 と成果	<p>【初等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月保健だよりを発行し、保健情報を伝えている。 ・毎週の予定表に記載し、校舎内にも掲示し、児童が常に意識できるようにした。 ・毎日の健康観察を行い、学校生活が健康的に進められる状態かどうか、感染症の初期兆候がないか等の把握を行った。 ・保健センターや保健室との連携を図り、熱中症や感染症等の予防とともに、けがの発生件数の減少に取り組んだ。 ・熱中症対策に努めた。熱中症指数モニターにより初等部グラウンドの熱中症指数を測定し、危険度を色で示した。適切に水分を摂取するよう指導を行った。 ・各玄関や各教室に手指消毒用のアルコールを設置し、衛生管理に努めた。 ・おう吐物の処理マニュアル・処理用のセットを各階のトイレや特別教室に設置した。 ・健康診断の結果から各種受診の勧めの呼び掛けや、学校薬剤師による環境衛生検査を行った。 ・健康診断事前事後指導、う歯予防指導を学級単位で行った。2年生・3年生・6年生のう歯予防指導は、担任と養護教諭で行った。 ・「体育」「家庭」等学習の面からの保健的なアプローチを行った。 ・「児童健全育成委員会」で、ケガや疾病、感染症の流行等について報じ、対策の検討を行った。 ・「校外学習指導計画」や「宿泊体験学習実施計画」、「水泳指導計画」を作成するとともに、心肺蘇生研修や食アレルギー研修等、研修の充実に取り組み、安全保護義務の徹底を図ることができた。 ・「健康教育全体計画」を作成し、健やかなからだの育成に取り組んだ。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校保健計画」に則り、保健活動を行った。 ・健康診断、救急処置を含む健康管理や学校薬剤師による定期環境衛生検査、教室の日常点検、机やいすの調整といった環境管理を円滑に行うことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・担任やカウンセラーと密に連携を取り合うよう努めた。その結果、相談活動を適切に実施することができた。 ・希望者を対象に健康相談として色覚検査を実施した。体位測定時のミニ保健指導の時間を利用し、色覚について理解を深め、プライバシーに配慮した検査を行うことができた。 ・児童保健委員及び保健係の仕事として、毎日欠席調べを行った。その結果、欠席状況を素早く把握し、感染症の予防と対策を講じることができた。 ・学級担任、教科担当と連携し、歯みがき指導を含む保健指導及び性教育を含む保健学習を行った。その結果、生涯にわたり健康な生活を送ることの大切さについて理解を深めることができた。
<p style="text-align: center;">今後の課題 と改善策</p>	<p>【初等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に即した保健指導を目指していく。 ・教職員が共通の認識を持って児童指導にあたることができるよう、内容について理解を深めていく。 ・教育課程の編成と関連付けながら、改訂学習指導要領に準拠した「健康教育全体計画」の作成を検討していく。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校保健計画」について、評価・考察を繰り返すことで課題を明確化し、より実際に即した計画となるように進める。 ・担任、カウンセラーと連携を取り、心身の健康の保持・増進に努める。

7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。 ・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。 ・校舎や通学路等の安全点検や教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、「安全」「安心」に生活できるよう、初等・中等教育支援室や警備室と連携を図り、防犯・防災に努める。 ・教室、廊下等の日々の安全点検に努める。 ・登下校の安全対策に努める。 ・緊急時に対応できるよう訓練を実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育支援室及び警備室との連携のもと、常に情報の共有化を図り、不審者侵入や緊急対応など、危機管理の徹底に取り組んだ。 ・日直当番による日々の施錠と安全点検の徹底に取り組むとともに、日直当番の見回りチェック表の見直しを図ることができた。 ・岩瀬キャンパス及び初等部内の防災訓練と避難訓練を計画に沿って実施し、防災への備えと安全への意識啓発を図ることができた。 ・防災備蓄庫の非常食・飲料水の保管管理に取り組んだ。 ・避難訓練の際に、非常食・飲料水の試食訓練を行った。 ・月毎の校舎や教室環境についての安全点検票を作成し、キャンパス整備部門との連携のもとに、日々安全管理に努めることができた。 ・警察の協力のもと、実践的な防犯訓練を行うことができた。 ・地区別集会の際に、登下校時に気を付けるべき事柄について、指導を行うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練のバリエーションを増やし、より実践に近い訓練を行うことで、児童と教員の危機意識の向上を図る。 ・防災備品の見直しを年に一回図る。 ・幼稚部、中・高等部、初等・中等教育支援室と連携をより密に図っていく。 ・登下校途中における防犯と防災についてもカリキュラムに位置付け、計画的に指導していく。

7-②	<ul style="list-style-type: none"> ・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災計画を整備し、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。 ・地区別集会や引き取り訓練等を通じて、各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部独自の避難訓練を2回、岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、防災訓練内で消火器取り扱い訓練と屋内消火栓取扱い訓練を各1回行った。また教職員対象の救命救急講座を1回行った。 ・保護者対象の行事として地区別集会と引き取り訓練を2回実施し、防災に関する心構えや基本行動の周知が行われた。 ・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、児童の災害時の食事に対する意識を高めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、管轄消防署と相談を行いながら、児童や保護者を含めて有事に対応できるような訓練を今後も継続する。 ・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部や中・高等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。

8. 組織運営

8-①	<ul style="list-style-type: none"> ・校長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神のもと、年度初めには部長より「初等部経営全体計画」が提示され、講和をし、教職員の理解を求める。 ・「教育活動目標報告書」の作成にあたり、年間1・2回程度（5月と1月）の面談を行う。 ・毎週出される「週案」の職務記述を通して、教職員一人ひとりのキャリアステージの向上に努める。 ・日ごろの授業や研究・研修授業を参観し、授業力向上に向けてアドバイスをする。 ・教職員の健康管理に配慮する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会定例化の指示。また、必要に応じて学年主任会、教科主任会、教科外主任会などを行った。必ず記録をすることを徹底し、次年度に生かすようにした。 ・教室やグラウンド、畑など校内の見回りをして、安全指導ができているかの確認を行った。 ・授業参観をして、クラスの児童の様子や整理整頓がなされているかを確認した。 ・勤務時間や休日出勤が適正に行われているか、教員一人ひとりの立場で確認した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・常に、報告と連絡と相談の体制を作り、児童対応や保護者対応が適正に行われているか、教員より十分聞いていく。 ・退勤時間が遅くなりがちであるため、週1回はセブンアウトデイを推進する。

8-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「もう一つ丁寧に！もう一步誠実に！」と「組織化と効率化」をテーマに PDCA サイクルの確立に努め、学校評価の充実に取り組む。 ・部長と次長、教務主任と庶務主任、進路指導主任、入試広報主任、生活指導主任、研究研修主任、学年主任からなる「拡大運営推進会議」を原則週1回程度実施し、円滑な運営と経営に取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任会、教科主任会、教科外指導の主任会などを学期に1回、年間3回ほど開催した。これにより、組織の活性化と教育活動の充実を図ることができた。また、学年主任及び教科主任に対し、基幹教諭及び中堅教諭としての自覚の形成を図ることができた。 ・研究研修主任を設置して2年目となり、研究と研修部門を統合し、教科指導力と児童指導力を柱に、教師力向上の取り組みを組織に展開していく。 ・「教育課程運営委員会」の中に「評価」担当を位置付け、「指導と評価（評定を含む）の一体化」のもとに、新学習指導要領準拠の教育課程の編成ができるようにした。 ・「児童健全育成委員会」の「全体会」を年間9回行い、児童指導についての情報の共有化と指導の一体化に努めた。 ・「研究研修推進委員会」、「教育課程運営委員会」、「児童健全育成委員会」の三つの委員会を三部会とし、定着してきた。必ず教職員はどこかに所属し、同じ時間に会議を行い、共有の話題で時間を持つことができた。 ・引き続き、各学年に「学年会計」担当を置き、学年主任と共に、学校行事や学年費などにかかわる稟議及び会計執行を迅速かつ適正に努めた。 ・校務分掌の担当者は、係分担の分散と集中の視点から、担当責任者と主たる担当者とのみの標記にとどめた。責任体制はできている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・担当責任者に対して、例年同様のみならず、常に新しい活動の創出を心がけ、必要な場合には主たる担当者以外の人的配置も含めて、計画的かつ創造的に校務分掌を推進するよう助言する。 ・教員が、学校行事、教材など教育活動のなかでかかわる経理関係を十分に熟知しておく。 ・学年主任会と教科主任会、教科外主任会の機能をさらに高めていく。

8-③	・職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「職員会議」の前に、必ず「拡大運営推進委員会」を行う。職員会議の議題や早急に検討しなければならない重要事項について話し合う。 ・定例として毎月1回（月末）、長期的展望のもと、特に翌月の教育活動を視野に入れて、「職員会議」を行う。
取組内容 と成果	<p>「拡大運営推進委員会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例の7回、臨時的な会議2回を含め、計9回開催された。参加メンバーは、部長、初等・中等接続教育推進担当、次長、校務の基幹主任、学年主任で組織運営される。必要に応じて、校務の担当者も出席する。 ・検討事項は、行事、入試広報、教育課程、児童の様子など、多岐にわたった。これらの検討・決定事項を「職員会議」の議題・伝達事項として、教職員に共通理解を図った。 <p>「職員会議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回（月末）、16：00～17：00の約1時間の職員会議を開催した。 ・例年と同様、「職員会議」の議案は事前に「拡大運営推進委員会」で検討された後、議案として提出することを原則とした。 ・初等部職員の他、初等・中等教育支援室、保健室、生徒相談室からも、担当職員が出席した。 ・「職員会議」の案件は、事前に検討されているため精査された議案として提出することができた。案件は報告、連絡という形で行い、職員に周知徹底させることに重点をおいた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「拡大運営推進委員会」が、校務分掌のなかで主軸となる働きをする必要がある。校務の各主任がおり、さらには各種委員会ともつながっていけるよう組織全体の活性化を図る原動力でなければならない。 ・初等部全体の教育活動の充実や構想を立てる機関として機能する。 ・長期的、中期的、短期的懸案事項に分け、精査していく必要がある。 ・「職員会議」資料の配付が、会議直前となるが多かった。少なくとも1日前に配付できるように準備していく。

8-④	<ul style="list-style-type: none"> 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 「鎌倉女子大学初等部文書管理規定」に基づき、文書を適切に管理する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 初等部が扱う情報・文書は、①児童の個人情報、②教職員の個人情報、③授業等の教育活動にかかわる情報、④金銭の出納、等学校運営にかかわる情報に分けることができる。「鎌倉女子大学初等部文書管理規程」に原則的に基づき、文書の管理を行った。 個人情報の電子化が進みつつあるなかで、そのデータが持ち出せないような仕組みづくりを、情報教育センターの協力を得て進めてきた。また、教職員の退職時には、一切持ち出していない旨の宣誓書を提出していただき、最終確認を行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 管理文書の適切な管理（期間どおりに保管、廃棄）を行う。 文書管理規定どおりに実施されているか、確認作業を実施する。 電子データと紙データの効果的・効率的な管理方法を検討する。

9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題を「学び合う授業の創造」とし、本主題に迫るために、年間6回の研究授業と4回の研究全体会を通して、授業改善を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回校内研究全体会（4月）では、研究主任が6年国語科で「響き合い道場～蜘蛛の糸～」の提案授業を行った。研究の進め方（10の提案）、研究主題討議、研修の進め方・計画について話し合い、共通理解を図った。 ・第1回校内研究授業（5月）では、6年社会科「武士の政治が始まる」という単元でグループ鼎談という手法、武士サミットという意見交流、ロールプレイ、KP法を使ったプレゼンの3つの視点で、研究授業を行った。講師として、鎌倉女子大学教育学部の教員に指導・助言を得た。 ・第2回校内研究授業（6月）では、3年国語科「漢字の組み立て」という単元で、操作活動やクイズ作りによる学び合い、用具の工夫などの3つの視点で、研究授業を行った。講師として、鎌倉女子大学教育学部の教員に指導・助言を得た。 ・第2回校内研究全体会（7月）では、6年・3年の研究授業のまとめと報告、他の学年は、研究実践中間報告を行った。 ・第3回校内研究授業（9月）では、2年音楽科「おまつりのかけ声で音楽をつくろう」という単元で、児童の学び合う姿、音楽づくりとかけ声、学習形態の3つの視点で研究授業を行った。講師として、鎌倉女子大学教育学部の教員に指導・助言を得た。 ・第4回校内研究授業（10月）では、4年国語科「ごんぎつね」という単元で、教材・教具、グループ分け、学習課題の適正の3つの視点で研究授業を行った。講師として、鎌倉女子大学教育学部の元教員に指導・助言を得た。 ・第5回校内研究授業（11月）では、5年算数科「既約分数」という単元で、習熟度別の話し合い、コース別の課題設定、シートの活用の3つの視点で、研究授業を行った。講師として、初等部長に指導・助言を得た。 ・第3回校内研究全体会（12月）では、2年・4年・5年の研究授業のまとめと報告、他の学年の研究実践中間報告を行った。 ・第6回校内研究授業（1月）では、1年国語科「おはなしをたのしもう」という単元で、グループ分けやふり返しカードの工夫、相互評価の導入の2つの視点で、研究授業を行った。講師として、鎌倉女子大学教育学部の元教員に指導・助言を得た。 ・第4回校内研究全体会（2月）では、研究授業のまとめと報告、研究の成果と課題、研修の成果と課題について話し合った。 ・いずれの校内研究授業も、視点を明確にし、鼎談を利用した活発な研究協議会ができ、着実に定着してきている。また、各学年事後のまとめの発表ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・個人研究授業については、前年度の3名から8名に増えた。次年度も、事前に予定を知らせ、助言をしっかりと伝えていく。 ・研究授業の取り組み方にも学年差が見られたため、学年全員で取り組むことを定着させ、事前、事後の研究を充実させていく。

9-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の課題が適切に設定され、実施されているか。 ・教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・これから教師として豊かに伸びていくために、全員で学び合える研修を充実させる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の全員研修は、7回行った。 ・4月の研修では、前半に、初等部の約束について、全教員で共通理解を図った。後半は、国語科の話すこと・聞くことの系統性と話し上手、聞き上手、話し合い上手のポイントについて学んだ。 ・通知表・評価研修（6月）では、通知表の入力の仕方、留意点についての共通理解を図った。さらに評価基準について検討するポイントを学んだ。 ・講演会（7月）「アクティブ・ラーニング」について、初等・中等教育接続担当を講師に迎え、国語力の育成、国語科の授業改善の具体策、学力向上には、授業力を磨く事の大切さなどを学んだ。 ・夏季研修報告会（8月）では、ほぼ全教員が、各自夏季に学んだことを5～10分にまとめ、自由に紹介しあった。本校教員のプレゼンの仕方が格段と上達した。 ・講演会（12月）「カリキュラム・マネジメント」について、7月同様、初等・中等教育接続担当を講師に招き、中央教育審議会の審議のポイント、教育課程、学校におけるカリキュラム・マネジメント等について学んだ。 ・1月の研修では、「これからの体育指導」について、体育科の改善事項のポイント、年間計画のポイント、ゲーム・ボール運動の留意点について学び、鬼遊び、ラインサッカー、ハンドボールの実技研修を行った。 ・2月の研修では、前半に、初等部の読書科について、各学年の指導例、貸し出しの仕方などについて共通理解を図った。後半は、全国学力・学習状況調査の結果を見ながら、本校の学年の特色が見えてきた。 ・校外研修として、2つの研究発表会に参加した。 ・10月15日（土）は、横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校の「授業デザイン研究」の研究発表会に10名参加した。 ・1月21日（土）は、横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校の「共に学びをつくりあげる子どもの姿を追い求めて」の研究発表会に11名参加した。 ・4月に8コマの初任者研修を実施し、経験年数2年未満の教員を対象に日々修養と研鑽の意識啓発に努めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校外研修については2校の研究発表会に多くの教員が参加できたが、校外研修の充実はまだ十分とはいえない。研修に関する情報を適切に伝達し、研修した人の報告会、レポート等の情報交換する機会をもつようにする。

9-③	<ul style="list-style-type: none"> ・校長等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。 ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての「資質の向上」を目指した教員研修を計画的に実施する。 ・学年会定例化の推進を図る。学年会は学年主任を中心とした人材育成機能の一端を担う機関とする。 ・校内研究の活性化を図り、児童理解と授業力の向上に努める。 ・日ごろの教室の見回り、授業参観を実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会を週1回以上とし、会議録をつけ、保管している。 ・4月に新任の教員に対する「初任者研修」を実施した。 ・着任と経験年数5年未満の教員を対象に「メンターチーム」を編成し、教師力の向上に取り組んだ。 ・「教育活動目標報告書」の活用を図り、年間2回程度の面談を行った。 ・週案への職務記述を通して、教員一人ひとりのキャリアステージの向上のためのアドバイスをを行った。 ・大学との連携のもと、「研究研修推進委員会」による校内研究及び教員研修を通して、教師力の向上に取り組んだ。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・入試広報にもつながる、教員としての「資質の向上」は、必要不可欠の課題であり、今後も魅力ある「教員集団」の育成に努めていく。 ・「教育活動目標報告書」を活用し、目標管理手法による人材育成の充実に努める。 ・高学年において安定した学級経営ができる学級担任の育成が急務であり、外部からの採用と内部からの育成を検討する。

10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校運営に参画し、協力できる体制を整えているか。 ・教育ボランティアを集めるシステムができているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などにおいて保護者ボランティアを集め、積極的に協力してもらう体制づくりを行う。 ・保護者が初等部の教育についてより理解を深めていただけるように努める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会・みどり祭・学芸会・音楽会といった年間行事、また、学校紹介において、保護者に協力を依頼し、受付等の仕事を担当していただくことができた。 ・毎月「見守りボランティア」を募集し、有志の保護者に下校時の児童の安全確認を担当していただくことができた。また、「図書館ボランティア」を新たに募集し、本の修復等を担当していただいた。 ・みどり祭の片づけを保護者に依頼し、教職員と共に物品の片づけを行った。同様の内容を、運動会でも行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部の教育活動、特に学校行事に関しては、保護者の協力により円滑に実施できている面もある。協力的な保護者も多いが、一部の保護者に負担がかかっているところもある。特に「見守りボランティア」「図書館ボランティア」については、協力いただいている保護者が限られている面もあるため、改善策を考えていく。 ・各行事における保護者ボランティアや、学校紹介における在校生の保護者体験談などを積極的に取り組んでいく。 ・今後はさらに、働きかけを工夫することにより、一部の保護者ではなく、より多くの保護者が初等部の教育を理解し、学校運営に参画する体制づくりを図っていく。

10-②	・学校公開を定期的実施しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学校を公開し、保護者、地域の方々に初等部を理解していただけるような体制づくりをする。 ・保護者、地域の方々との連携を深める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の授業参観と年間4回の保護者会を実施した。 ・児童募集に関連し、学校紹介とオープンスクールを年2回ずつ行い、初等部に関心のある方に施設や授業を公開した。 ・運動会、みどり祭、学芸会、音楽会を公開行事として行った。 ・8月に『親子deクッキング』を実施し、児童とその保護者が参加した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介において授業を公開したり、行事を公開行事にしたりするなどして学校公開を定期的に行っている。本年度はオープンスクールの希望者が予想を超え、対応に苦慮したため、今後の対応を検討していく。 ・みどり祭などは地域の方々にも公開を呼びかけているが、あまり広がりは見られない。その一つの原因として考えられるのが、警備面・安全面に関することである。学校公開を定期的に行い、多くの方々に初等部を訪れてもらうためには、この点をいかにクリアしていくかが長年の検討課題である。 ・学校周辺の方々との連携を図りながら、学校を公開し、より多くの方々に初等部のことを知ってもらうことが今後は大切になってくる。

10-③	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。 ・教育相談体制を整備し、児童・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員を対象とした内部評価とともに、児童保護者を含む関係者評価を実施し、学校経営と運営についてのPDCAサイクルの確立と普段の見直しに努める。 ・年間の保護者会、前・後期面談を通して保護者からの要望を把握し、教育活動に反映させる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校評価アンケート」を3学期に実施した。保護者の方が満足している教育活動と、そうでない活動が明確になった。 ・評価が低かったのは、みどり祭に関連する設問と英語に関する設問であった。 ・「学校生活アンケート」を1学期と3学期に実施した。児童が健やかに充実した学校生活を過ごせることを目標に、学校における児童の生活実態をつかむことができた。また、緊急時の対応及び登校指導の資料として役立った。 ・保護者会後での意見や学校評価アンケートをもとに、保護者からの要望を定期的に収集し、教育活動に適宜反映させた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果を、次年度の教育活動の充実・見直しに生かしていく。 ・アンケート結果について、教員が検討する時間を確保していく。 ・みどり祭の改善については、学園全体で取り組んでいく。 ・英語の授業に関しては、児童の英語の力に大きな差があるため、授業内容をよく検討していく。また、研究授業を行うなど、教員全体が英語の授業に対して知る場と授業の改善を図る場を設ける。 ・保護者の意見に対応するだけでなく、事前に保護者の要望を予測し、事前準備を行っていく。 ・スクールカウンセラーとより積極的に連携し情報共有していく。

10-④	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろの教育活動を理解してもらうため、学校全体、各学年ごとに便りを定期的に発行する。 ・遠足や宿泊体験学習の行事などは、詳細な活動内容や費用を書面で知らせる。 ・行事（入学式、運動会、みどり祭、学芸会、音楽会、卒業式など）ごとにお知らせのプリントを発行する。 ・保護者会を年4回行う。 ・教材など、費用を要する場合、学年ごとに知らせる。 ・緊急性を要する場合は、はやぶさメール（学校メール）で知らせる。 ・個人面談（年2回）、必要に応じて教育相談を設ける。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、初等部だより（部長のコメント、行事予定など）を発行した。 ・各学年、必要性に応じて、学年だよりを発行した。発行部数は、学年に応じて違いはある。 ・緊急の場合（交通機関の乱れ、災害のため登校や下校を変更する場合は、はやぶさメール（学校メール）で、伝達した。 ・保護者会は、三部構成（①全体会、②学年会、③クラス会）になっている。教員が保護者に情報を直接的に話す最適な機会となった。 ・個人を対象にしたものは、個人面談（5月―全員、1月―希望者）を行った。場合によっては必要性に応じて臨時の教育相談も行った。6年生に関しては、希望者に進路進学相談を行った。受験前の12月が多かった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部だよりの内容を質・量的な面から拡大する。 ・保護者会の内容の創意工夫を行う。他機関からの講師を招聘して講演会を開催する。 ・行事などのお知らせは、早めに作成し、保護者に周知徹底させる。

10-⑤	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	・地域の方を講師として招いたり、初等部生から地域に出向いたりし、地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源を活用する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5学年では、9月に学校行事として鎌倉めぐりを行い、建長寺や高德院といった鎌倉の寺社を訪ね、自然と地域文化にふれるなかで「知・特・体」の能力を育むことができた。 ・2学年では、1月に五社稲荷神社で社会科見学を行い、地域に受け継がれてきた伝統について学習することができた。 ・3学年では、6月に消防署と警察署、10月に近隣の商店、12月に工場で社会科見学を行い、学びを深めることができた。 ・4年生は社会科、6年生は図工科において鎌倉彫を体験し、伝統文化に触れながら彫刻の技能を学ぶことができた。 ・5年生の理科では、鎌倉女子学大学が保護している鎌倉固有の“鎌倉メダカ”を飼育する活動を通して、生物の発生の学習を行うことができた。 ・6年生は卒業座禅において鶴見区の總持寺から僧侶の方をお招きし、坐禅の仕方と心構えを教わった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・5学年以外が地域の自然に触れる機会は比較的少ない。生活科や理科、総合的な学習の時間において、地域の自然に実際に触れる機会を増やすよう努める。 ・地域の伝統行事にかかわる機会を作っていく。 ・地域の人材を生かした授業や単元を計画していく。

10-⑥	・教育実習生の受入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	・教育実習生の受け入れを通して、次世代の学校教育に貢献・寄与するとともに、指導担当教諭及び関係教諭の教科指導力と生活指導力、教材研究力をよりいっそう高める機会とする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉女子大学から1名、他大学から1名の教育実習生を受け入れた。 ・「初等部教育実習計画」（B4版8頁）を作成し、在籍大学の目的に沿った実習の実現に努めてきている。 ・授業参観及び授業研究並びに学級経営を通して、教科指導と生活指導の基本とともに、教材研究の仕方が身に付けられるように取り組んだ。 ・指導担当教諭と児童委員会活動やクラブ活動はもとより、諸会議にも参加し、広く小学校教諭の職務についての理解を図った。 ・既定の実習期間で在籍大学の目的に沿った実習が実現できた。 ・教科指導や生活指導の基本、教材研究の仕方についての理解にとどまらず、小学校教育の意義や教職に従事する者の心構えについても体験的に理解を図ることができた。 ・指導的役割を果たす過程で、指導担当教諭の教師力や学級経営力の向上にもつなげることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生にとっても、また初等部にとっても実効性のある教育実習とするために、指導担当教諭の養成について検討していく。 ・指導担当教諭の負担感を軽減するために、学級受入れから学年受入れにシフトしていくことが考えられる。 ・指導案の書き方や勤務・服務姿勢など、在籍大学での実習前の授業（指導）の在り方が課題である。

11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動についての説明会を実施したり、学校案内を配布したり、ホームページを活用するなど、学校に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。 ・ホームページに校長名、学校の所在地、連絡先、学級数、児童数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。 ・児童等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でも多くの方に本学の良さを知っていただくため、情報フェアや学校紹介等の持ち方や取り組みを検討し、募集活動につなげる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・私立小学校フォーラム、私立小学校フェア、私立小学校湘南フェスタ等に参加した。公開授業や模擬授業などに取り組み、初等部の教育について広報した。 ・6月・7月にオープンスクールを実施した。特に、7月の「テストにチャレンジ」では、参加希望者が多かったため、午後の部も実施した。初等部の教育、施設公開を目的、初等部の教諭との交流を目指した内容で行い、多くの園児が参加した。 ・夏季休業に幼稚園や幼児塾などを訪問し、学校の広報に努めた。 ・ホームページを定期的に更新し、情報を公開してきた。 ・幼児教室への挨拶まわりを拡大させるとともに、1年生と2年生の出身園への学校案内と行事案内の送付に取り組んだ。 ・学校説明会の実施回数や曜日、持ち方について検討を加え、新たな学校説明会の創造に取り組んだ。 ・全教職員による「今一つ丁寧な指導、今一步誠実な保護者対応」を通して、在籍児童家庭の入学推薦意識の高揚に取り組んだ。 ・幼児教室及び幼稚園への直接訪問件数を30件台に伸ばすことができた。 ・「全教職員による入試広報活動」の意識啓発が浸透してきた。 ・湘英会での部長講演会が新規で開催できた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介やオープンスクール参加者が出願・受験へとつながる工夫を行う。 ・教師の児童指導力、教師力の向上を図る。 ・「放課後児童育成GKプラン」を具体化していく。 ・初等部外の広報部門との連携を図り、広報活動の充実にいっそう努める。

11-②	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部入試・広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。 ・募集人員充足に向け、①学校案内制作、②学校説明会運営支援、③広報媒体等への交渉、④ホームページ運営委託業者移行支援等を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内制作の支援を行った。パンフレット制作会社へのアドバイスと、初等部入試・広報担当教員のパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた交渉を実施した。パンフレットの費用対効果が向上した。 ・ホームページ制作会社の移行支援を行った。運用コスト、コンテンツ更新速度等を多角的に勘案した結果、大学、及び中・高等部にて委託をしている業者が最適と判断した。結果、幼稚部から大学院までのホームページ構成デザインの統一が図られ、視認性、告知力の向上につながった。 ・他校の募集要項を多角的に調査・比較した。それらを集積データとし、初等部の総合的な募集力向上に寄与した。 ・広報ツールの制作支援を行った。広告備品等の制作費の削減に向けた交渉を積極的に行った。これにより広報予算の有効活用が図られた。 ・幼児対象塾に対する募集活動（個別訪問）の支援を行った。 ・「接続教育推進プロジェクト会議」を開催した。幼稚部から高等部までの現状と課題を共有し、各部の戦略的な募集力向上を図った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部の募集定員の充足に向け、入試・広報担当教員の支援活動の充実を図る。 ・計画的な募集活動の補佐に加え、教育活動を効果的に伝える学校説明会の運営の支援等を行い、志願者数の増加を図る。 ・幼児対象塾に対する告知の増強を図る。塾講師へ初等部の優位性を強く発信する。 ・幼稚部・初等部間の進学接続支援の増強を図る。

12. 教育環境整備

12-①	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが充実した学習ができるよう、豊かな教育環境を整備する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 図書室、図工室、情報教育実習室、第1音楽室、第2音楽室、理科室、家庭科室（調理室）、多目的学習室などの各種特別教室や室内プール、松本講堂のほか、初等部専用グラウンドも整備され、また、校内にたんぼ等の農園もあり、緑に囲まれた明るい教育環境が整っている。 各教室のプロジェクターの有効活用として、「みらいスクールステーション」（学校へICT教育の導入促進と環境改善を図る教育ICTソリューション）を導入し、音声のみではなく、映像なども各教室に同時配信ができるように整備した。 iPad Proとアップルペン（32組）を購入し、それらを活用した授業展開が可能となった。「体育」や「理科」、「音楽」など子ども同士で動画を撮影して見せ合うなどの活用ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちにとって、より豊かな教育環境となるよう、今後も引き続き施設・設備の充実と改善を行う。合わせてそれらの設備を有効に使うための教材の充実も図っていく。 図書室の蔵書を格納するスペースがまだ不足している。現在の閉架図書を保管している場所は行事備品を保管している場所と共有しており、空調整備が不十分な倉庫であるため図書の保管には適していない。蔵書を保管する場所や方法について検討していく。 動画を撮るだけではなく、iPad Proを更に有効に活用できるような教材開発を今後検討していく。

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全を確保する ・施設・設備の機能を維持する。 ・より快適な環境で児童が学校生活を送れるよう環境整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・チラー（冷却水循環装置）の更新を行った。 ・西館2階・3階においてトイレの改修工事を行った。 ・壁・天井等内装の改修工事を行った。 ・床の剥離清掃を行った。 ・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・建物診断の結果から今後の保守計画を立て、実施する。 ・外壁の汚れが目立つため、屋上を含め改修工事を行う必要がある。 ・トイレの洋式化等改修工事を継続する。 ・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・特別活動が円滑に行われるよう、教材・教具の整備・点検を行う。 ・児童の豊かな読書活動を支えるため、図書の充実、図書室の整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、教室点検を行い、担当で教具の状況を取りまとめた。 ・学期末、学年末に倉庫の整理を行い、老朽化した教具・不要になった教具を処分した。まだ倉庫内に収まりきらない物品や、責任者不明若しくは退職の物品が多くある。 ・別置図書（学年・特別教室）の配架を行った。 ・図書館ボランティアに図書の補修をお願いした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教具については、倉庫内に収まりきらない物品や、責任者不明若しくは退職の物品は、責任者を明確にし、更に細かく、定期的に整備していく。 ・図書室脇倉庫の半分を、閉架図書として利用しているが、宿泊関係やクラブ関係の物品であふれているため、改めて整理・処分を行う。 ・別置図書は各教室の担当による整備・補修が不十分になってしまうため、整備方法を検討する。

13. 事務支援体制

13-①	・初等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
取組目標	・日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・平成27（2015）年度より昼食時におけるカフェテラスでの弁当・パン注文の取扱いが始まり、総務部や担当者とも連携して現在軌道に乗せることができている。 ・これまで経理部で作成していた業者支払いの勘定伝票や、扱いを厳格化する目的で預り金についての新たな帳票を初等・中等教育支援室で引き続き作成し、事務処理の合理化・厳格化に貢献した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図る。

14. 自己点検・評価

14-①	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が年に1回以上定期的実施されているか。 ・全教職員が評価に関与しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年に一度、学校全体で一年間の教育活動を振り返り、次年度更に充実した教育活動が行われるよう、それぞれの校務分掌に沿って自己評価をする。 ・全教職員が自己点検にかかわれるよう担当の割り振りをする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌に沿って、担当を割り振り一年間の教育活動の自己評価を行った。 ・それぞれの担当が自己評価をすることで、次年度に向けての教育活動に生かすことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当に対する自己評価だけでなく、他の項目における自己点検にも全教職員が関心を持ち、次年度の教育活動に生かせるようにしていく。

14-②	・自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
取組目標	・指導と評価の一体化を図るとともに、行事・授業評価を含む学校評価を2月に実施し、保護者と教職員の「連携」と「協働」のもと、「信頼」を構築していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末（2月）に学校評価を実施し、結果を保護者会で報告した。 ・教育活動のなかで、学校評価の満足度が低いのは、「講習や補習など、教育サポート体制」「宿題の量や質」「英語への取り組み、授業、英検、英語教室・英語講習等」についてであった。 ・「登下校の安全」「地震や台風など緊急時の対応」「学校行事、運動会、学芸会等」については、高い満足度と達成度が得られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「講習や補習など、教育サポート体制」「英語への取り組み、授業、英検、英語教室・英語講習等」については、授業改善をしていく。講習のあり方については、担当者と部長、次長での話し合いを随時行っていく。また今後は、児童が、講習ごとに、毎回、学習した内容を書き、記録とする講習日誌を作成する。 ・「宿題の量や質」については、学年におろし、検討する。